

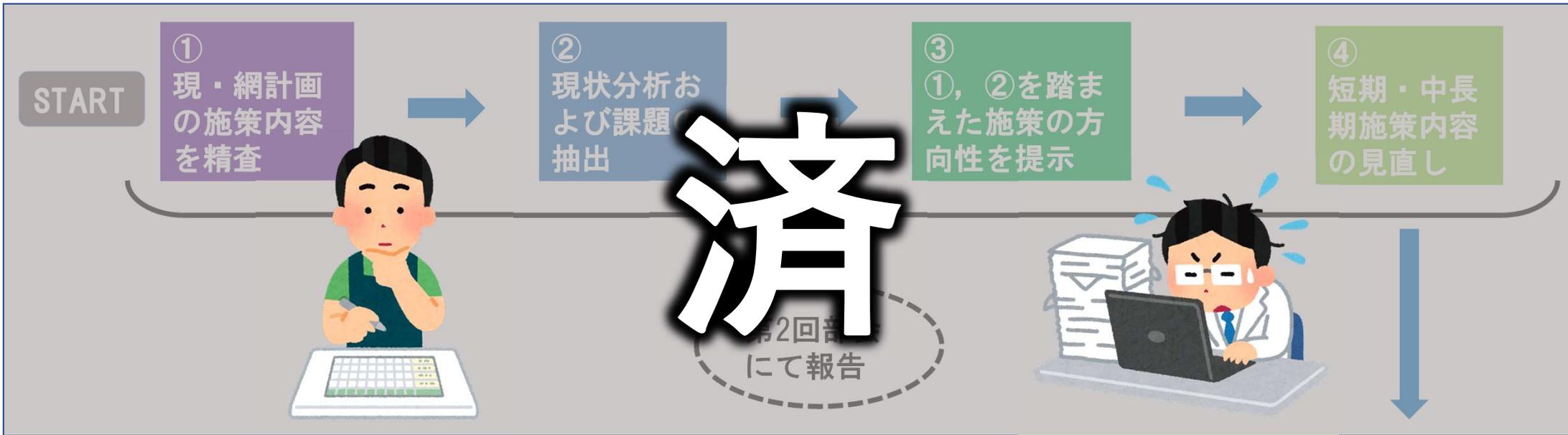


柏市地域公共交通網形成計画の 改定案について

令和6年2月1日
柏市交通政策課



1. 柏市地域公共交通網形成計画の改定手順



2. 柏市地域公共交通網形成計画改定までのあらすじ

第1回交通政策審議会地域公共交通部会

現計画の改定方針に関するご説明として、主に以下の3つ

①COVID19によるライフスタイルの変化への対応

②運転士不足、2024年問題

③持続可能な地域公共交通

を特に重視し計画改定を行う旨をお示しいたしました。

あわせて計画改定の背景や考え方、スケジュール感をお伝えしました。

第2回交通政策審議会地域公共交通部会

現計画の進捗状況のご報告と①～③のような昨今の社会情勢を踏まえ、新・計画の**基本方針**と**検討の方向性**についてお諮りしご承認いただきました。

現計画の短期施策の全てを継続することとし、現状を交えて計画改定を行う旨をお諮りしました。

第3回交通政策審議会地域公共交通部会

前回の会議から内容を煮詰め、今回お示しする計画案を委員の皆様からのご承認いただき、その後パブリックコメント（市民の皆様からご意見をいただくこと）を実施し、新・計画の完成を目指します。



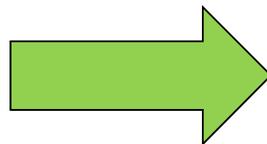
3. 計画名の変更

現：柏市地域公共交通網形成計画

新：柏市地域公共交通計画（案）

柏市地域公共交通網形成計画

柏 市
平成31年（2019年）2月



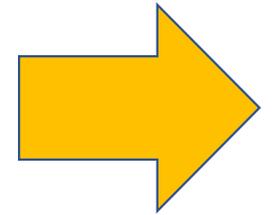
柏市地域公共交通計画（案）

柏 市
令和6年（2024年）4月

現計画（網計画）の改定に伴い、
計画の名前も「柏市地域公共交
通計画」にリニューアルします。

4. 施策の基本方針と方向性

上位計画との関連事項 (定性的目標)	基本方針	施策概要【短期】
<p>○まちなぎを高め交流を促進する利便性の高い交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の移動活性化に資する公共交通ネットワークの形成 ・地域の需要やニーズに適応したサービスの提供 ・定時性・速達性も確保した利便性の高いサービスの提供 	<p>地域状況に応じたバス路線への再構築</p>	<p>A. 公共交通軸の強化</p> <p>B. 企業バス等との連携検討</p> <p>C. 先進技術の活用</p> <p>D. コミュニティ交通の運行形態見直し</p> <p>E. 公共交通空白不便地域における対応策の検討</p> <p>F. 運転士確保への取組</p>
<p>○誰でも利用しやすい安全で安心な交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民、来訪者ともに利用しやすくわかりやすいネットワークの形成 ・より利便性を高める情報提供の促進 ・高齢者、子育て世代などに求められるバリアフリーへの対応 	<p>交通モード間の円滑化を推進</p>	<p>G. 駅前広場の待合環境整備</p> <p>H. ICT を活用した情報案内の実施</p>
<p>○賑わいのある地域拠点の形成を担う交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々が集い活力のある拠点形成に資する交通結節点の形成 ・中心市街地の活性化に資する都市拠点での交通円滑化、快適な歩行環境の形成 	<p>ユニバーサル社会に対応した交通環境の構築</p>	<p>I. 交通環境のユニバーサル社会の促進</p>
	<p>中心市街地活性化に向けた公共交通と自動車の共存</p>	<p>J. タクシー待機車列の解消</p>
	<p>公共交通利用促進</p>	<p>K. 公共交通の周知施策</p>



前回の会議にて施策の基本方針と方向性についてお話しし、主に短期施策・短期指標をベースに改定します。

また、現計画において記載されている内容のアップデートもを行い、現状に則した内容に改定します。

詳細な改定内容に関しては資料2をご確認ください。

短期施策A 【公共交通軸の強化（継続）】

施策概要 ・バス乗降客の状況を考慮しつつ、公共交通軸（柏の葉キャンパス駅～柏駅～沼南庁舎周辺）の利便性・速達性の向上を図ります。

【施策詳細】

- ・幹線区間は利便性が高まるような運行本数を検討します。なお、フィーダー区間は需要面と事業性及び地域の状況を考慮して、運行本数を設定します。
- ・また、現状では一部系統（柏駅～沼南庁舎間（片道）及び柏駅～国立がん研究センター）においてパターンダイヤを行っています。今後、幹線区間での拡充を検討します。



▲公共交通軸

◀公共軸としての対象路線



路線記号	経路	幹線区間
柏22	柏駅～沼南庁舎～小野塚台	各路線の 柏駅～沼南庁舎
柏25	柏駅～沼南庁舎～布瀬	
柏27	柏駅～沼南庁舎～手賀の丘公園	
柏31	柏駅～沼南庁舎～セブンパークアリオ柏～沼南車庫	
柏35	柏駅～沼南庁舎～工業団地中央～沼南車庫	
柏54	東我孫子車庫～大津ヶ丘団地～柏駅東口	
柏09	柏の葉キャンパス駅東口～柏駅	
西柏01	柏駅西口～国立がん研究センター	
西柏02	柏の葉キャンパス駅西口～柏駅	

短期指標A

新・短期施策A. 公共交通軸の強化

施策概要

・バス乗降客の状況を考慮しつつ、公共交通軸（柏の葉キャンパス駅～柏駅～沼南庁舎周辺）の利便性・速達性の向上を図ります。

現・短期指標A

- バス運行本数(平日)
3,500本/日以上
- バス利用者数
約1,890万人/年以上

現況よりも5%以上の利用増加を図る。



現況

- バス運行本数(平日)
3,410本/日(2022年)
- バス利用者数
約1,577万人/年(2022年)

新・短期指標A

- バス運行本数(平日)
3,410本/日維持
- バス利用者数
約1,577万人/年維持

コロナ渦の水準を維持。



【まとめ】

●短期指標A バスの運行本数

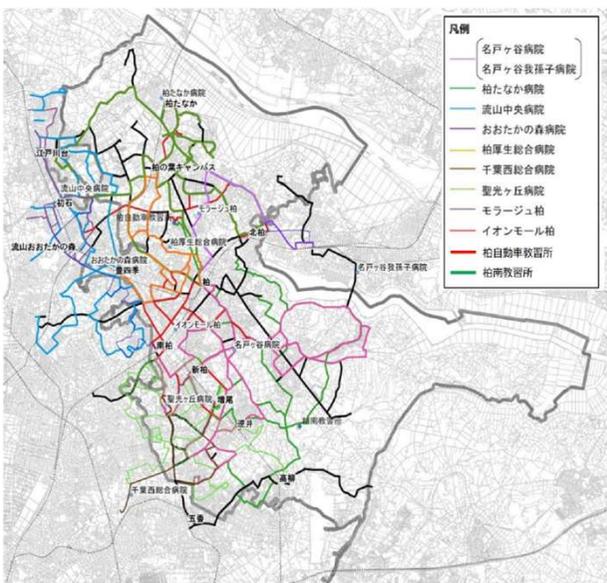
現：運行本数を増やす



新：コロナ渦の本数を維持

短期施策B 【企業バス等との連携検討（継続）】

施策概要 ・交通弱者などの移動手段として、病院や商業施設などが独自で運行している送迎バスの活用検討を進めます。



▲企業バスの路線図

【施策詳細】

企業バスとの連携検討

⇒民間活力として企業が独自で運行している数多くの送迎バスの活用検討を進め、民間バス路線を補完するとともに、交通空白不便地域の解消にも寄与出来るように検討します。



←企業バス路線図

短期指標B

新・短期施策B.企業バス等との連携検討

施策概要

・交通弱者などの移動手段として、病院や商業施設などが独自で運行している送迎バスの活用検討を進めます。

現・短期指標B

○企業バス等と連携した地域数：4地域
(北部・中央・南部・東部で連携する。)

バス路線と重複しないルートを実行する企業バスと連携し、市内各地域(北部・中央・南部・東部)の移動手段確保を図る。

現況

●連携地域数：なし
(施策なし)

新・短期指標B

●企業バスと連携した事例数：1事例

【まとめ】

●短期指標B 企業バスと連携

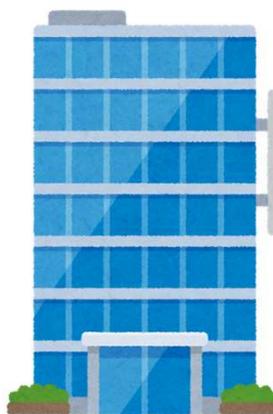
現：4地域

(北部・中央・南部・東部)



新：1事例

柏市
KASHIWA CITY



会社



短期施策C 【先進技術の活用（新規）】

施策概要

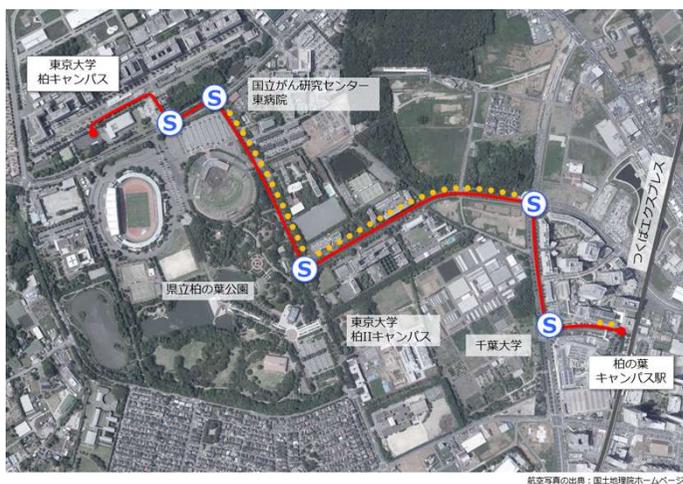
・自動運転等の新たな技術に関しても検討を行います。



【施策詳細】

・自動運転技術は、交通事故の減少、公共交通の運転士不足などの課題解決として期待されています。

公・民・学連携による社会実験を柏の葉エリアでスタートさせており、次世代型の公共交通システム導入を進めていきます。



▲柏の葉エリアで実証実験中の自動運転バスの運行ルート



▲柏の葉エリアで実証実験中の自動運転バス（レベル2）

短期指標C (新規)

新・短期施策C.先進技術の活用

施策概要

・自動運転等の新たな技術に関しても検討を行います。

現・短期指標

○なし

現況

- 自動運転化レベル：レベル2
- 自動運転バスによる営業運行実証実験を実施

新・短期指標C

- 自動運転化レベル：レベル4
にむけた事業化の目途付け

【まとめ】

●短期指標C 先進技術の活用

旧：なし

新：自動運転のレベルを上げ、
事業化を目指す。



▲柏の葉エリアで実証実験中の自動運転バス（レベル2）

短期施策D 【コミュニティ交通の利便性向上（継続）】

施策概要

・「ワニバス」、「カシワニクル」の運行見直しも含め、更なる利便性の向上を図るとともに、周知施策を実施します。

【施策詳細】

①ワニバスの常盤平駅までの延伸検討

②ワニバス(逆井・沼南・南増尾コース)における車内デジタルサイネージの開始による利便性向上



▲「ワニバス」(逆井・沼南・南増尾コース)



◀イメージ写真
北九州市交通局
出典：公益財団法人交通
エコロジー・モビリティ財団

③ワニバス(市役所コース)の運行と周知活動

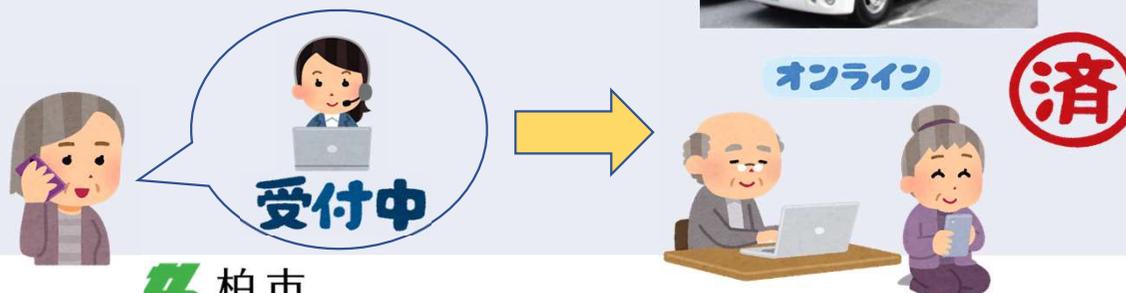


ワニバス(市役所ルート)

④カシワニクルのオンライン初回登録の検討



▲予約型相乗タクシー「カシワニクル」



短期指標D

新・短期施策D.コミュニティ交通の利便性向上

施策概要

・「ワニバース」、「カシワニクル」の運行見直しも含め、更なる利便性の向上を図るとともに、周知施策を実施します。

現・短期指標C

○コミュニティ交通利用者：約 52,400 人/年 以上

現況よりも 5% 以上の利用増加を図る。



現況

●カシワニクル利用者：11,508人/年（2022年度）

●かしわ乗合ジャンボタクシー利用者：32,465人/年（2022年度）



新・短期指標D

●コミュニティ交通利用者：約 50,000 人/年 以上（ワニバース市役所線ルートは除く）

コロナ渦前の利用者水準を目指す。



▲予約型相乗タクシー「カシワニクル」



▲「ワニバース」
(逆井・沼南・南増尾コース)

【まとめ】

●短期指標D コミュニティ交通の利便性向上

現：利用者数約 5. 2 4 万人



新：利用者数約 5 万人

地域コミュニティ交通を運行していく上で運賃収入につながる利用者数向上は欠かせません。安定した運行を続けていくための指標を設定いたしました。

短期施策E 【公共交通空白不便地域における対応策の検討（継続）】

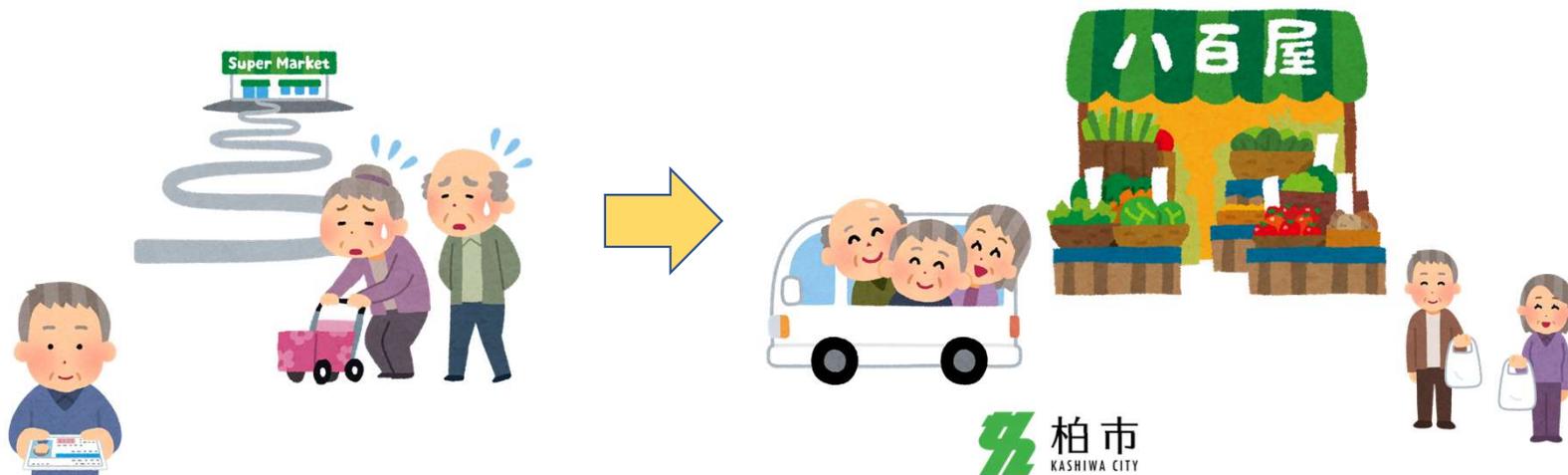
施策概要

- ・市内の公共交通空白不便地域において、地域の需要に対応した、公共施設や商業施設等へのアクセスを検討します。
- ・先行して行われる地域におけるモデルケースを参考に、地域住民が主体となった運営組織との協議・連携を踏まえ移動手段を確保します。

【施策詳細】

～公共交通空白不便地域の解消に向けて～

- ①民間バス路線の再編を基軸とし、これを補完するような施策を導入します。
- ②公共交通空白不便地域で、自家用車等での移動が出来ない方の移動手段の確保を目的とします。
- ③地域の交通需要（輸送人数）に応じた交通手段とし、地域の足として持続可能な公共交通を目指します。
- ④地域住民が主体となった協議会組織に柏市及び交通事業者も参画して、協議を進める手法も検討します。



▲弥生町会を運行する買い物支援
タクシー
「やよいタクシー」

短期指標E

新・短期施策E.公共交通空白不便地域における対応策の検討

施策概要

・柏市には公共交通空白不便地域が存在しており、これを解消することが必要です。

現・短期指標D

○圏域：24.3%以下

可住地域内の交通空白不便地域解消を目指す。



現況

●公共交通施策検討対象地域のうち、柏市地域公共交通網形成計画（2018年度）策定時点で未対応だった11地域に対する施策実施状況：
2事業（とねっこタクシー、やよいタクシー）



新・短期指標E

●公共交通施策検討対象地域のうち、柏市地域公共交通網形成計画（2018年度）策定時点で未対応だった11地域に対する施策実施状況：
5事業（3事業追加）

可住地域内の公共交通空白不便地域内の不便解消を目指す。

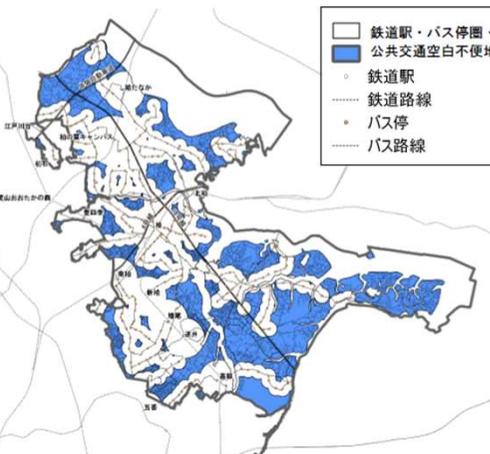
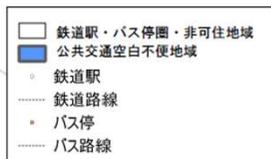
【まとめ】

●短期指標E 交通空白不便地域対策

現：空白不便地域の割合を24.3%以下にする。



新：交通空白不便地域(11地域)へ5施策実施を目指す。



▲公共交通空白不便地域

短期施策F 【運転士確保への取組（新規）】

施策概要

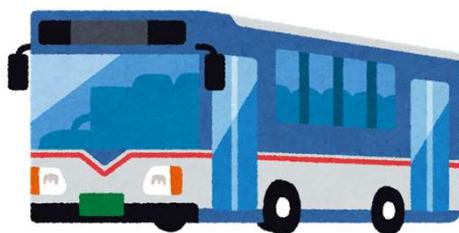
- ・ 交通事業者と協力し、合同就職説明会等の支援を検討します。



【参考】船橋市バス乗務員募集合同説明会の例

【施策詳細】

- ・ 社会インフラの重要な一部である公共交通を支えるため、運転士不足の解決に向けた方策として、複数の交通事業者、ハローワークと連携し、合同（バス・タクシー）の就職説明会・運転体験会等の開催を検討します。



説明会



短期指標F (新規)

新・短期施策F.運転士確保への取組み

施策概要

・交通事業者と協力し、合同就職説明会等の支援を検討します。

現・短期指標

○なし



現況

●なし



新・短期指標F

●開催数：1件/年以上



【まとめ】

●短期指標F 運転士確保への取組

現：なし



新：開催数1件/年以上

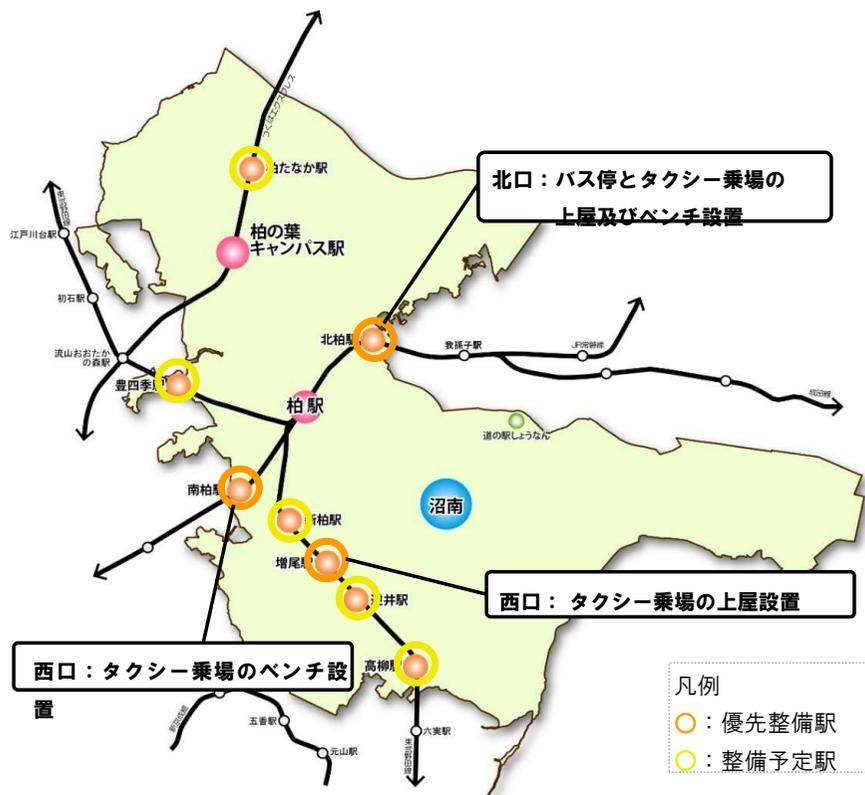
説明会



短期施策G 【駅前広場の待合環境整備（継続）】

施策概要

・駅前広場を中心にバス、タクシー乗場の利用環境改善のため上屋、ベンチの整備を図ります。



▲駅前広場の上屋・ベンチ設置予定箇所

【施策詳細】

柏市バリアフリー基本構想に記載のある、南柏駅・増尾駅や区画整理事業が展開されている北柏駅を優先し、未整備駅の待合環境整備を進めます。



▲上屋設置イメージ

▼南柏駅東口ベンチ(R4年度設置)



短期指標G

新・短期施策G.駅前広場の待合環境整備

施策概要

・駅前広場を中心にバス、タクシー乗場の利用環境改善のため上屋、ベンチの整備を図ります。

現・短期指標E

○駅前広場の待合環境整備駅数：3駅

市内全駅で上屋、ベンチ等を整備する。



現況

●駅前広場の待合環境整備（ベンチ）数：7箇所

●駅前広場の待合環境整備（上屋）数：11箇所



新・短期指標G

●計画期間中の駅前広場の待合環境整備（ベンチ）数：2箇所追加

●計画期間中駅前広場の待合環境整備（上屋）数：3箇所追加

将来的に市内全駅で上屋、ベンチ等を整備する。



【まとめ】

●短期指標G 駅前待合環境の整備

現：3駅



新：2箇所追加（ベンチ）
3箇所追加（上屋）



短期施策H 【ICTを活用した情報案内の実施（継続）】

施策概要

・鉄道やバスの乗り継ぎ、運行案内のため、乗換情報サイトへの情報共有を行うほか、来訪者でもわかりやすいよう、交通結節点での情報案内だけでなく運行情報の周知を図ります。



▲柏駅東口ペデストリアンデッキ上のデジタルサイネージ（R4年度設置）

【施策詳細】

デジタルサイネージの設置促進

⇒駅などの交通結節点において、住民だけでなく、観光客や外国人でもわかるように、バスの運行情報や遅延情報を発信するデジタルサイネージの設置を進めます。

デジタルサイネージによる運行情報提供(バス×バス+観光)

＜運行情報・観光情報提供(葛西臨海公園駅)＞

○多言語対応のデジタルサイネージを活用し、バス運行情報、周辺観光情報を提供し、外国人観光客を含めた利用者の利便性を向上

【多言語対応の表示画面】



【外観】



※表示画面の情報は平成29年3月21日時点

【参考】東京都交通局 ▶



デジタルサイネージによる運行情報提供(バス×鉄道)

＜バス運行情報提供(門前仲町駅 他)＞

○地下鉄からバスに乗り換える利用者に対して、バスの発車時刻、乗り場、路線・系統図等を駅構内でデジタルサイネージにより案内

【外観】



【全体画面】



短期指標H

新・短期施策H. ICTを活用した情報案内の実施

施策概要

・鉄道やバスの乗り継ぎ、運行案内のため、乗換情報サイトへの情報共有を行うほか、来訪者でもわかりやすいよう、交通結節点での情報案内だけでなく運行情報の周知を図ります。

現・短期指標F

○情報案内板の整備数：4箇所

情報案内板を新たに1箇所整備する。



現況

●情報案内板の整備数：4箇所



新・短期指標H

●情報案内板の整備数：5箇所

情報案内板を新たに1箇所整備する。

【まとめ】

●短期指標H ICTを活用した情報案内

現：4箇所



新：5箇所（新たに1箇所整備）

短期施策I 【ユニバーサル社会に対応した交通環境の構築（継続）】

<p>施策概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、車両の買換え時を含めてノンステップバスを導入するとともに、ユニバーサルデザインタクシーの導入を促進することでバリアフリー化を進めます。 ・ワニバス（逆井・沼南・南増尾コース）でのシルバーパス導入の検討を行います。
--------------------	---

ノンステップバス

出入口の段差を無くして乗降性を高めた低床バス



82.3%（361台中297台）

※市内を運行するバス事業者が4社

ユニバーサルデザイン タクシー

車いすのまま乗車できる、障害者や高齢者に配慮された誰もが使いやすい一般タクシー車両



22.7%

※市内を運行するタクシー事業者：10社

短期指標I

新・ユニバーサル社会に対応した交通環境の構築（継続）

施策概要

- ・今後、車両の買換え時を含めてノンステップバスを導入するとともに、ユニバーサルデザインタクシーの導入を促進することでバリアフリー化を進めます。
- ・ワニバス（逆井・沼南・南増井コース）でのシルバーパス導入の検討を行います。

現・短期指標F

○ノンステップバス導入率：90%を目指す。

○ユニバーサルデザインタクシー導入率：3%を目指す。

非ノンステップバス車両更新の際はノンステップ車両に置換えとし、ユニバーサルデザインタクシーは市内各社に1台を導入する。

現況

●ノンステップバス：82.3%（4社）

●ユニバーサルデザインタクシー：22.7%

【まとめ】

●短期指標I 交通環境に配慮したユニバーサル社会の構築

現：90%（ノンステップバス）
3%（UDタクシー）

新：90%（ノンステップバス）
30%（UDタクシー）

新・短期指標I

●ノンステップバス導入率：90%を目指す

●ユニバーサルデザインタクシー導入率：30%を目指す

非ノンステップバス車両更新の際はノンステップ車両に置換えとし、ユニバーサルデザインタクシーの導入率は国及び県の動向も注視する。



短期施策】 【タクシー待機車列の解消（継続・見直し）】

現・施策概要

・ 柏駅東口周辺道路の客待ちタクシー列を解消するため、ショットガン方式によるタクシープールの導入を図ります。



▲ 柏駅東口のタクシー待機列の様子

京都タクシー業務センター烏丸口のりばライブ映像
出典：京都市HP

新・施策概要

・ コロナの影響もあり、タクシー利用者が減少傾向にあった昨今において、客待ちタクシー車列は時期や時間帯により状況が大きく異なるので、今後の利用状況やタクシー事業者からの意見も参考にしながら検討していきます。

【施策詳細】

ショットガン方式に限らず、駅前広場への過度なタクシー車両の流入を抑制する方法を、タクシー事業者と連携を図りながら検討・実施していきます。



【対策事例】

駅前広場にライブカメラを設置し、タクシー待機車列やタクシー待ち利用者の混雑状況を見える化することにより、タクシー運転士の判断により、広場の乗入れを調整します。

短期指標J 【継続・施策内容見直し】

新・短期施策J. タクシー待機車列の解消

施策概要

・コロナの影響もあり、タクシー利用者が減少傾向にあった昨今において、客待ちタクシー車列は時期や時間帯により状況が大きく異なるので、今後の利用状況やタクシー事業者からの意見も参考にしながら検討していきます。

現・短期指標H

○駅東口交通広場外の客待ちタクシー台数：0台

社会実験の結果を踏まえ、恒久的に利用出来るタクシープールを導入することで、交通広場外のタクシー待機列解消を図る。

現況

●タクシープール導入は社会実験実施済み(2016年)

●休日はショットガン方式導入中(市役所駐車場活用)

●客待ちタクシー車列は減少傾向であるが、時期や時間帯により状況が大きく異なる。

新・短期指標J

●柏駅東口交通広場外の客待ちタクシーの解消

タクシー乗り場のライブ映像を発信することで、交通広場内へのタクシー車両の流入抑制を図る。

【まとめ】

●短期指標J タクシー待機車列の解消

現：0台

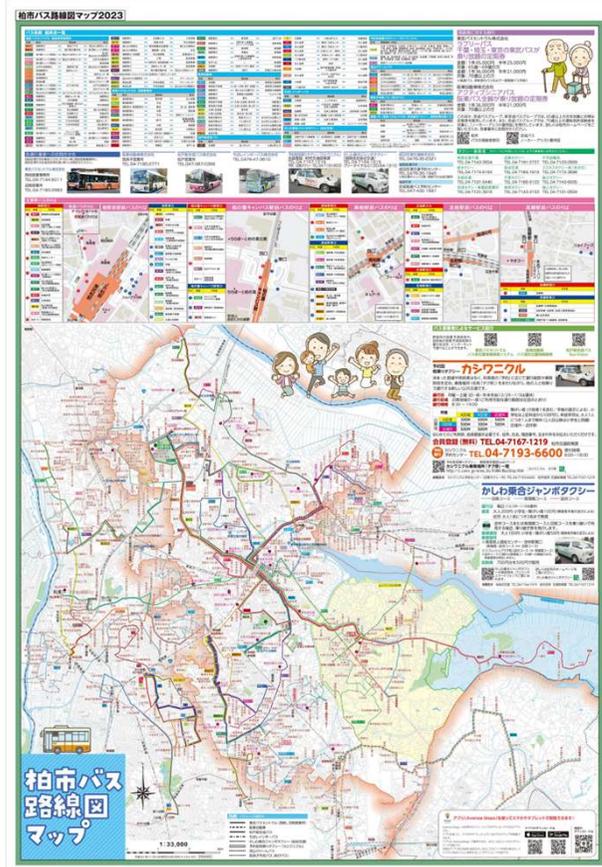


新：客待ちタクシー台数の解消

短期施策K 【公共交通の周知施策（継続）】

施策概要

柏市内小学校の授業において、バス事業者と連携してバスの乗り方教室を実施します。加えて、柏市バス路線マップ作成・配布を継続して実施します。



▲柏市バス路線マップ

【施策詳細】

- ・ **バスマップを作成**
⇒ 柏市への転入者や子育て世代に対して配布
- ・ **バス乗り方教室の実施**
⇒ 学齢期からバスが身近な存在に感じられるよう、バスの利用方法や社内マナー、事故防止策など、実際のバス車両を使って体験してもらう体験型授業に取り組んでいます。



短期指標K

新・短期施策K.公共交通の周知施策

施策概要

・柏市内小学校の授業において、バス事業者と連携してバスの乗り方教室を実施します。加えて、柏市バス路線マップ作成・配布を継続して実施します。

現・短期指標H

○スマップ配布：2万部

○小学校でのモビリティマネジメント教室の実施：全校

バス事業者と連携し、モビリティマネジメントを推進する。

現況

●バスマップ配布：2万部(2022年度)

●小学校でのモビリティマネジメント教室の実施：未実施(2022年度)

新・短期指標K

●バスマップ配布：2万部

●小学校でのモビリティマネジメント教室の実施：6校/年

バス事業者と連携し、モビリティマネジメントを推進する。



▲バス乗り方教室の授業風景



【まとめ】

●短期指標K 公共交通の周知施策

現：2万部（バスマップ）

市内全校（モビリティマネジメント教室）



新：2万部（バスマップ）

6校/年（モビリティマネジメント教室）

まとめ

- ①特に大きな改定があった、短期施策A～Kをご説明
⇒継続となっている既存施策をベースに現況に則した
施策・指標をご説明



- ②この改定をもって委員の皆様からご承認いただき、パブリックコメント
（市民の方々からご意見をいただく）を実施。

- ③計画改定内容の詳細は「資料5 柏市地域交通計画（案）」を
ご確認ください。

【補足】短期施策A～K（P.61～P.72）

